

教授就任挨拶

熊本大学大学院生命科学研究所 老化・健康長寿学講座



教授 三浦恭子

令和五年（二〇二三年）二月一日付で、熊本大学大学院生命科学研究所 老化・健康長寿学講座教授に就任いたしました。三浦恭子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は兵庫県神戸市で生まれ、兵庫県立兵庫高等学校を卒業後、奈良女子大 学理学部化学科に進学し、二〇〇三年で卒業いたしました。大学の卒業研究では感熱応答性高分子の物性に関する研究に従事してりましたが、生命科学に深く魅了され、奈良先端科学技術 大学院大学バイオサイエンス研究科修

士課程及び京都大学大学院医学研究科 博士課程に進学し、山中伸弥教授に師 事いたしました。博士課程一年の頃に 研究室でiPS細胞が樹立され、博士 課程では、慶應義塾大学医学部生理学 教室（岡野栄之教授）および整形外科 学教室（中村雅也教授）との共同研究 で、iPS細胞から神経幹細胞を誘導 し、その治療効果を検討する研究を行 いました。この研究を通じて、iPS 細胞の安全性が、元となる体細胞の種 類に依存するという新しい概念を提唱 し、また、脊髄損傷モデルマウスへの 治療効果を有することを実証するこ とができました。

二〇一〇年の学位取得後、かねてか ら大変興味をもっていた、最長寿命歯 類で強い発がん耐性・老化耐性をもつ、 ハダカデバネズミの研究を開始しまし た。ハダカデバネズミの発がん耐性、 老化耐性のメカニズムをin vivo、in vitroの両面から明らかにするべく、 日本の研究機関で唯一のハダカデバネ ズミの飼育・研究施設を設立しました。 慶應義塾大学および北海道大学におい て、ハダカデバネズミからiPS細胞 を作出し、本種特有の腫瘍化耐性機構 を解明するなどの研究を行いました。

二〇一七年十一月に熊本大学大学院先 導機構准教授として着任し、ハダカデ バネズミの組織における炎症応答減弱 を介した発がん耐性のメカニズムや、 老化細胞における細胞死誘導メカニズ ムなどの解明に努め、これらの研究か らハダカデバネズミの発がん耐性・抗 老化機構についての理解を深めました。 プライベートでは、二〇一五年に長男、 二〇一八年に次男を出産し、研究室の 運営と育児の両立に取り組んでいます。 今後、ハダカデバネズミを含む長寿 動物の研究を通じて、老化やがんを 「起こしにくい」分子機序の理解を目 指した医学研究を推進してまいります。 また、ハダカデバネズミを次世代 実験動物として確立すべく、遺伝子改 変技術の開発にも力を入れてまいりま

